

令和4年8月23日

正和会視察報告

報告者 小林 貢

実施日：令和4年8月23日(火)午後

場 所：埼玉県狭山市、入間市

参加者：石川義郎、山崎貴裕、小林貢、小澤芳輝、佐藤弘治、清水義朋、幡垣正生
武藤政義、串田金八(議席番号順)

目 的：①狭山市「入間川にこにこテラス活性化事業」の取組について

②ジョンソントウン見学：埼玉県入間市東町1丁目

概 要：①狭山市が、入間川沿いの公園に民間の協力を得て、令和3年に、「入間川にこにこテラス活性化事業」として、テラス(スターボックス)を公園の一角にオープンした。

市民等が散策・休憩・運動の場として親しんでいる場所を更に居心地のいい空間とするため、官民が連携し社会実験として実施したものである。

②ジョンソントウンとは、国道463号沿いにある元米軍住居地域跡地全体のことをいい、民間事業者が統一された街並みとして再整備したものである米軍ハウス23棟、平成ハウス35棟、日本家屋4棟、セキスイM1 7棟、その他10棟の合計79棟(2017年5月現在)の建物が、住居用・店舗用として賃貸されている。

所 感：①【入間川にこにこテラス活性化事業】

公園の一角にスターボックスが出店したことにより、公園利用者や近隣住民などは、居心地のいい空間として利用しているように見受けられた。

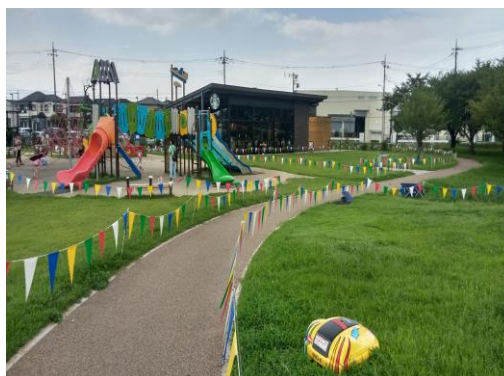
また、これまでの公園のイメージを刷新する取組であると感じた。

しかし、スターボックス(コーヒーチェーン)が経営を成り立たせるためには、それなりの利用者がいなければ採算ベースに乗せることは難しい。

経営内容は伺い知ることはできなかったが、店舗立地から見る経営について予測して見ると、車両の往来のある、国道463号沿いであることや、住宅地に隣接していること、市民等が必然的に利用する広大な公園の一角にあること、消費者の利便性向上のためのドライブスルーも見受けら、また、来場者の駐車スペースも十分に確保されていること、子供連れでも安心して遊べる大型遊具の設置など、経営環境は良好ではないかと推測できた。

公園の新たな活用方法の取組事例として、福生市の今後の市民サービス

等の向上の参考としたい。



【ジョンソントウン】

元米軍住居地域跡地を再整備し、統一された平屋の街並みは、アメリカナイズされた雰囲気醸し出し、ゆったりとしていて、居心地がいい。自分のお気に入りのお店が見つかるかも知れない。そんな気持ちにさせる街並みであった。来場者の駐車スペースもきちんと用意されており、安心して散策やお買い物ができるのも魅力であった。

当市の、今後のまちづくりの参考としたい。

